

地域学校協働活動実践活動例
～倉敷市福田中学区ゴミ減量化作戦～

1 ねらい 福田中学校区の住民が学区のゴミの回収をとおして、豊かな瀬戸内の海を取り戻す活動に賛同し積極的に協力する。

2 参加団体 福田中学校生徒・教職員及び保護者、福田公民館、水島地区環境衛生協議会
倉敷古城池高校生徒・教職員、山陽新聞社、福田中学校区人権学習推進委員会
(一財) E. Cオーシャンズ、倉敷市(環境学習センター)、(公財)みずしま財団

3 公民館の役割: 学校、地域、行政をつなぐハブの役割を担う。

4 学校運営協議会の役割: 地域と学校が連携・協働し、学校を核とした地域づくりをめざす。

5 活動日及び活動場所等

(1) 令和5年6月25日(日) 10:00～12:00 福田公民館で活動の趣旨を理解する。

(2) 令和5年8月20日(日) 7:00～ 8:30 福田中学校区の8つのエリアでゴミ回収をする。

(3) 令和5年12月3日(日) 8:00～10:00 第一回福田中スポGOMI選手権を開催する。

(4) 令和5年12月17日(日) 10:00～12:00 倉敷市環境学習センターで交流会を行う。

6 目 標

(1) 行為目標: (1)～(4)の参加者数を延べ400名以上とする。

(2) 成果目標: 異年齢集団が交流することによって、次年度の参加意欲が高まる。

水島地区全域へ活動を広げていこうとする意欲が湧いてくる。

活動の広がり 1

～ゴミ拾いはスポーツだ!～

福田中学校では地域の清掃活動の継続と参加者のモチベーションの高揚を狙って、ゴミ拾いに「スポーツ」のエッセンスを加え、社会活動を「競技」へと変換させた。

競技者は生徒であり、教職員・保護者・地域住民は審判員として参加する。

活動の広がり 2

～中高生による海ゴミ回収交流会～

(一財)E. Cオーシャンズが主催し、倉敷市(環境学習センター)が協力する、県内の中高生によるゴミ回収活動等の成果発表の場を設ける。参加者相互の活動内容を理解するとともに、活動の輪を広げるきっかけを作る取組を実施する。希望者は、前日にE. Cオーシャンズのメンバーと共に海ゴミの回収を行う。

社会教育・公民館実践とSDGs・協働のまちづくり

倉敷市水島における環境再生のまちづくり ～協働の始まり、発展とこの先～



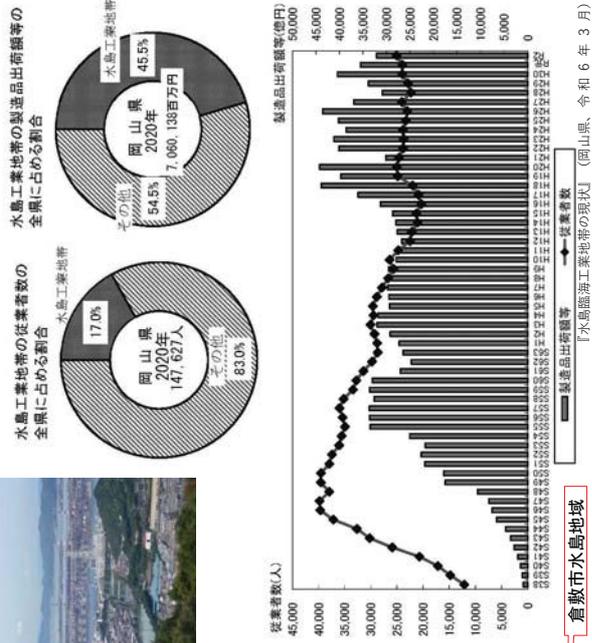
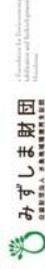
本日のお話し

- ・前半 水島で、なぜ、協働のまちづくりが必要なのか

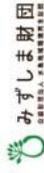
地域開発と公害
患者の願い
公害経験を活かす ⇒ **健康づくり** ・ **環境学習**

- ・後半 倉敷市福田公民館の実践

若い世代と地域をつなぐ公民館
海ごみ問題を身近なところで取り組む



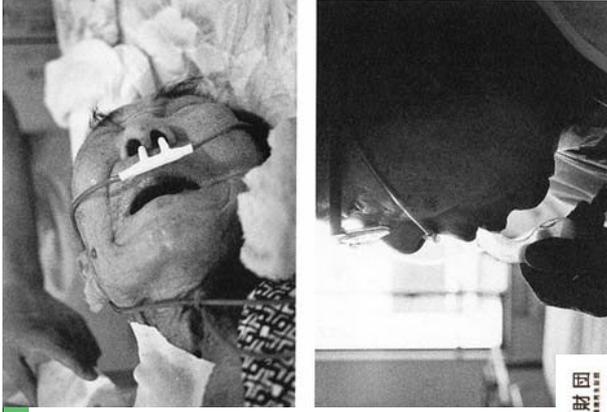
1960年代後半以降、 公害が深刻化





呼松の住民は化成水島に「人畜絶対阻止」のぼりを立てて抗議のデモをした。初の本格的な住民運動であった。

1964年7月22日



1983年 提訴



法廷へ



1994年 一人も落とさ ずに勝訴



患者さんの思い・願い
 「裁判で勝っても、身体は元に戻らない・・・」
 「つらい思いをするのは自分の世代で・・・」
 「子や孫にはよい環境を手渡したい」たくさん

←

環境再生のまちづくりが必要

「よみがえれ 水島のまち 公害のまちから緑と水にぎわいのまちへ」“水島再生プラン”を1995年に作り、発表。1996年の企業との和解の後押しになった。



2000年3月14日
(財)水島地域環境再生財団 設立

和解条件

- 一 被告会社は、原告らに対し、大気汚染とその健康影響をめぐる長年に亘る紛争
- 二 原告らは、右訴訟の一部を原告ら環境保衛、地域の生活環境の改善なる実現に期できるものとす。
- 三 原告らは、その余の謝意を放棄す。
- 四 原告らおよび被告会社は、本和解により、原告らの公害健康被害補償法に基づき、金銭資格にこの影響がないことを相互に認諾する。
- 五 被告会社は、今後とも公害防止対応に努力する。
- 六 原告らおよび被告会社は、本和解処理に定むるほか、本件につき他になんらの権原争いのないことを認諾する。

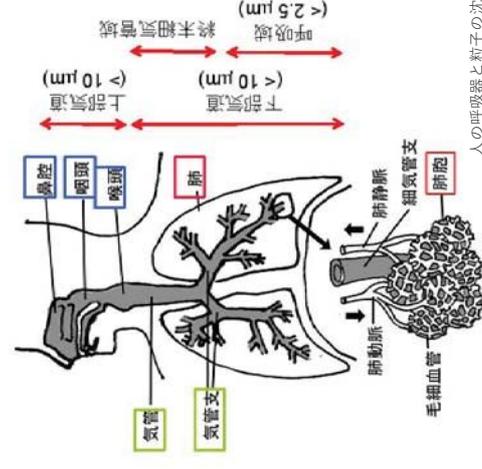
出典：『正義が正義と認められるまで』(1998年)



**みずしま財団設立趣意書より
 (一部抜粋)**

以上のことから、倉敷公害訴訟の画期的な和解を踏まえて、よりよい生活環境を創造する活動を展開していくために、住民を主体に、行政・企業など水島地域の様々な関係者と専門家が協働する拠点として、ここに財団法人「水島地域環境再生財団」を設立します。

人の呼吸器と粒子の沈着領域



人の呼吸器と粒子の沈着領域 (概念図) (出典：国立環境研究所)

公害経験を健康づくりに活かす

出発点は高齢の公害患者。発展して、地域全体の公害患者のために

公害経験を健康づくりに活かす取り組み

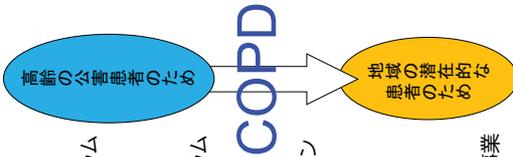
2006年 高齢認定患者対象の包括的呼吸ケアリハビリテーションプログラム
外来での呼吸ケア

2007年 高齢認定患者対象の包括的呼吸ケアリハビリテーションプログラム
入院での呼吸ケア(10日間の入院+3ヶ月の外来フォロー)

2008年 地域連携による包括的呼吸ケア 高齢認定患者リハビリテーション
プログラム検討会(医師、開業医、保健所等)

2009年 イベントでの肺年齢測定を活用した情報発信

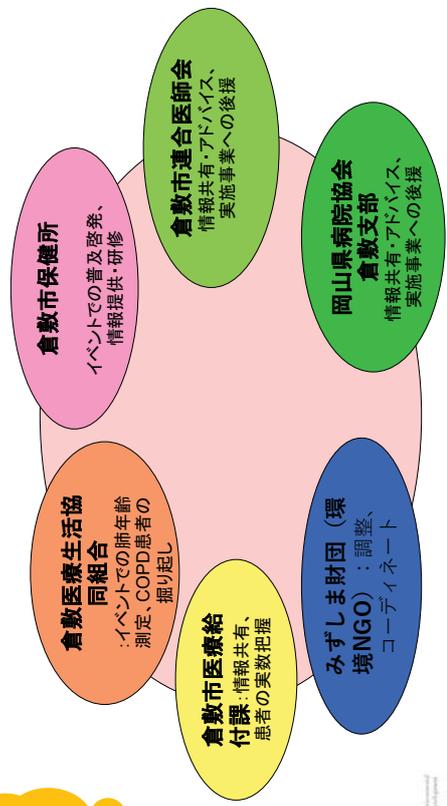
2010年 肺年齢測定・呼吸リハビリテーションを活用した情報発信・啓発事業



みずしま財団
公益財団法人 水島公害健康啓発事業団

くらしきCOPDネットワーク

(COPD予防・呼吸リハビリテーションの普及及び地域ネットワークの構築をめざした検討会)



公害経験を健康づくりに活かす取り組み

みずしま財団
公益財団法人 水島公害健康啓発事業団

公害経験を健康づくりに活かす取り組み

みずしま財団
公益財団法人 水島公害健康啓発事業団

公害経験からの学び

企業・行政・住民それぞれの思いと行動を学ぶ

- ・ 大気汚染被害、住民運動の歴史
- ・ 行政による環境監視の取り組み
- ・ 企業による環境対策技術、生産技術

公害経験を環境学習・まちづくり活動に活かす

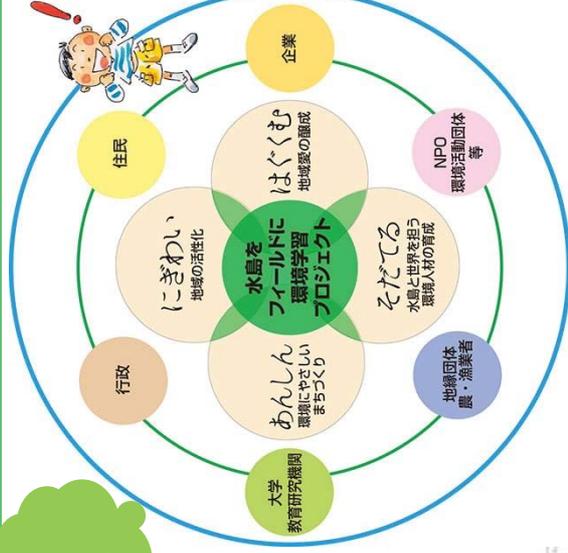
水島の学びによって養われる力

- ・ 問題の背景に対する理解
- ・ 多面的で総合的なものの見方、価値観
- ・ 課題を発見し、解決のための方法を自分のチカラで考える力

水島の環境学習は「持続可能な開発のための教育(ESD)」
「持続可能な開発目標(SDGs)」につながっている。

みずしま財団
公益財団法人 水島公害健康啓発事業団

公害経験を
環境学習・まち
づくりへ活かす



多様な立場の人とつながり、
協働で進めないとうまくいかない。

そして、公害地域では、軋轢から一歩踏み出し
協働で育める関係性を創ること、
コミュニティの再生そのものにもなる。

協働の戦略・
アプローチ
その1

「ここだったら協力できる」から始めよう。
メンバーの気持ちの共通点は何だろうか？



↓ 「子どもの学びためなら」、「水島の未来のためなら」協力できるという思いに、
共通点があることがわかった

環境学習分野における、協働の展開

公害経験を
環境学習・まち
づくりへ活かす

- 1999 第一回八間川調査 環境再生のシンボルに。市民が、自分の住む環境を調べる
- 2000 海底ごみ調査 漁業者との協働、調査から政策提言。2009年からは漁業体験を開始
- 2010 環境と観光をつなぐ研究会 事業型 NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル事業
- 2013 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会 このあたりから、公民館との連携・協働が始まっている
- 2018 みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

協働の戦略・
アプローチ
その2

“環境”を広くとらえて、温故知新

第一回水島学講座 2016年10月25日



↓ 公害問題に限らずに、地域の歴史や暮らしそのものを
環境と捉え、テーマにすると関係者や参加者が広がる

協働の戦略・ アプローチ その3

変化しながら価値をともに創りだす、ゆるやかな関係性

倉敷市福田公民館で、“手作りジオラマ”を題材に、地域の防災を高校生と一緒に学び合う。



地域住民と高校生が、ハザードマップやジオラマを囲んで、危ない箇所を語り合う。

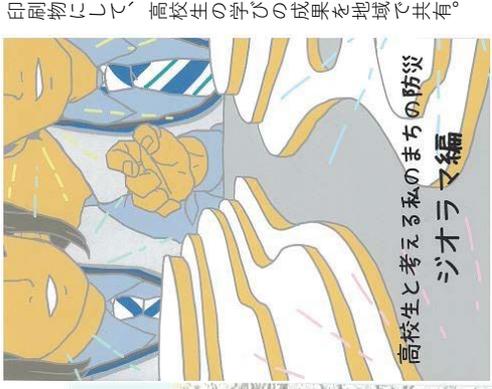


↓
多世代が一緒に学び合うことで、
意見がある。お互いにとって刺激がある。
公民館がその拠点となった。

協働の戦略・ アプローチ その3

変化しながら価値をともに創りだす、ゆるやかな関係性

これがジオラマだ！



印刷物にして、高校生の学びの成果を地域で共有。

高校生と考える私のまちの防災
ジオラマ編

みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの立ち上げ

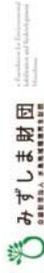
2018年3月29日



地域子どもたちや、海外からの留学生の学びを地域が支えるしくみづくりを目的に、倉敷市や大学、地元経済団体も参加する「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」を立ち上げた。

2023年度は、中高生の修学旅行、平和学習、企業の研修などで、16団体718名が氷島に学びに來られた。

⇒学びを支える企業との関係性がその後、活かされる
(今田館長の発表で詳細あり) **学びはご縁とつながりを生む**



公害地域の再生・地域づくりに関わる調査研究及び活動

海ボウズプロジェクト(TOTO水環境基金)

月に一度の回収実施
企業との連携、若い世代の育成



この他、岡山県河川ごみ等、回収・発生抑制モデル事業として、岡山科学技術専門学校や御南西公民館・倉敷市福田公民館、倉敷医療生協と連携 ⇒この後、今田館長からお話しします！